

Together



患者さんへの
インタビュー動画はこちら



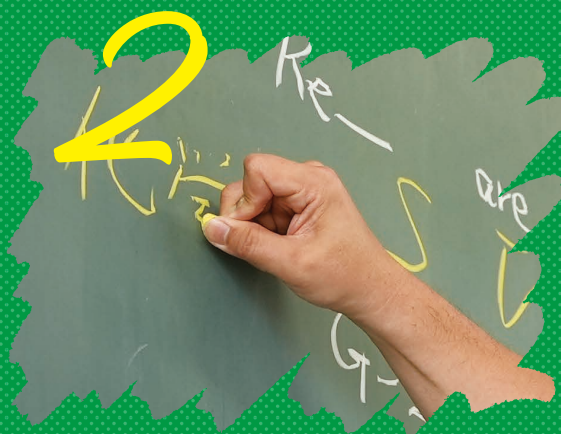
再び教壇へ 右手と心を取り戻すまで

就労支援プログラムによる職場復帰



突然の発症と絶望の中での入院生活

去年の7月5日の夜中、足がつって目が覚めました。トイレに行こうと立ち上がると、右足と左足の感覚が違っていました。妻に「少しおかしい」と伝えると、すぐに救急車を呼んでくれて、そのまま病院に運ばれました。検査の結果は脳梗塞。翌朝には右手と右足が動かなくなっていて、頭が真っ白になりました。英語の授業で板書をしたり、生徒と話したりするのが日常だったので、「明日学校に行けますか?」と聞いたほど、現実を受け止められませんでした。悲しさと絶望感でいっぱい、何も考えられず、行きたい場所も食べたいものも思い浮かびませんでした。復職を目指すなら、しっかりリハビリができる環境が必要だと思い、下関リハビリテーション病院への入院を決めました。



もう一度、黒板に字を書くために

入院してからの目標ははっきりしていました。右手で字を書けるようになること。英語の板書ができるようになって、もう一度教壇に立ちたいという思いでした。最初は指を少し動かすことから始まり、洗濯バサミをつまんだり、紙コップを積んだりといった地道な訓練を重ねました。療法士さんが、鏡に紙を貼って字を書く練習を提案してくれたり、新聞記事を使って書く練習を取り入れてくれたりしました。最初は一つの単語も書けなかったのですが、1～2週間ほど経って「あれ、少し書けるようになったかな」と感じる瞬間がありました。その小さな変化が、大きな希望になりました。就労支援の担当の方が職場にも来てくださり、学校との調整をしてくれたことも心強かったです。



教壇に戻って、再び生徒と向き合う

2025年4月、ついに教壇に戻ることができました。最初は「本当にやっていけるだろうか」と不安もありましたが、黒板の前に立った瞬間、胸がいっぱいになりました。3年生の担任として卒業式に間に合い、生徒たちに直接「お別れ」が言えたことが、本当に嬉しかったです。今は板書や文字の正確さをもっと高めたいと思っています。電子黒板など新しい教材にも、少しずつ挑戦していきたいです。リハビリはやめてしまったらそこで終わりだと思っています。6か月の壁といわれますが、今でも右手は少しずつ動くようになっています。つらい時期もありましたが、諦めずに続ければ必ず前に進めます。僕の経験が、今リハビリに取り組んでいる方の励みになれば嬉しいです。



早鞆高等学校・菁菁館

〒750-0009

山口県下関市上田中町8丁目3-1

